

1

月号

2009 平成21)年
1月1日発行SCHOOL
JURIDICAL PERSON
OSAKA
SANGYO
UNIVERSITY学園ニューズレター
[ネオス] No. 2発行元: 学校法人大阪産業大学
学園振興企画部 学園広報課
〒574-8530 大阪府大東市
中垣内3丁目1番1号
TEL: 072-875-3001
<http://www.osaka-sandai.ac.jp>産高アメフト・
桐蔭高ラグビー、サッカー高校3クラブ
全国大会出場!

写真左上=桐蔭サッカー部、同左下=桐蔭ラグビー部、同右上=産高アメフト部

■特集 学園創立80周年を祝い会……02

学生・生徒の“宝”を磨くのが使命
聖域なき自己点検と改革への挑戦でさらなる発展をめざす

■和やかに、にぎやかに

初のホームカミングデー開催……06

■大学 ピックス……08

学生フォーミュラ 参戦プロジェクト
やっています! プロジェクト 共有
——OSUプラネタリウムプロジェクト

■就職活動を振り返って一内定者座談会……10

自信を持って社会へ踏み出そう

■花嶋先生の

おもしろ研究室大探検……12
工学部機械工学科
中村友道 研究室

■ニュース& ピックス……14

■編集後記……20

宝を磨くのが 学生・生徒の



使命



聖域なき自己点検と改革への挑戦で さらなる発展をめざす

●「新しい学園力」を学生らが発表

「学園創立80周年を祝う会」が11月5日午後、大阪市のシェラトン都ホテル大阪で開催され、官公庁・各種団体・各教育機関・企業などの関係者や学園支援者、学園各学校の学生・生徒の保護者、教職員など約700人が参加し、盛大に創立80周年を祝った。

祝う会は、学園の「今」と「これから」の紹介をテーマとする祝賀会と懇親会の2部構成。会場前ロビーには、世界最速記録達成をギネスブックに認定されたオキシライドレーサー(乾電池車)や、大阪産業大学附属高校アメリカンフットボー

ル部、大阪桐蔭高校硬式野球部の全国大会優勝旗やカップなどが展示され、大阪桐蔭中学・高校の生徒や大阪産業大学の学生らによる茶席も設けられてお客様をお出迎え。華やかな雰囲気の中、祝賀会場へとご案内した。

祝賀会は、大阪桐蔭高校、大産大の合同吹奏楽団が演奏する「ローマの祭り」の旋律に乗ってスタート。「学生と先生の距離が近い」「いい先生にめぐり合えた」「自動車整備で有名な大学」「総合大学として多彩な人材がいる良さ」という学生・生徒の声がビデオ映像で紹介されるオープニングの後、古谷七五三理事長が登壇。「現在、総勢1万5000人あまりが学ぶ本学園には、官公庁や企業からも注目される大産大のプロジェクト共育をはじめ、注目すべき教育成果が生まれ





華やかに 学園創立80周年を祝う会

ています。高校でもクラブ活動や大学進学で優れた実績を上げていますが、本学園のすべての学生・生徒は、それぞれが輝く宝を持っています。その輝く宝を発見して、彼らの人格形成に力を尽くすのが我々の使命。少子化など学園運営には強烈な逆風も

吹いていますが、我々は聖域なき自己点検と改革への挑戦でこれを乗り切る覚悟です。80周年に当たり、皆様のご支援に感謝すると同時に、今後も格段のご支援をお願いする次第です」と謝辞を述べた。

続いて「新しい学園力とは」と題し、大学で取り組むプロジェクト共育のうち、3例が紹介された。



「学生フォーミュラ参戦プロジェクト」は、メンバーの学生7人が映像を使い、また会場に実車を持ち込んで活動ぶりを報告。単なる自動車の製作技術やレース成績だけを競うのではなく、スポンサーとの交

渉や広報活動なども含めた、学生の総合力を競う大会だというプロジェクトの意味と、取り組み2年めでエントリー77台中、31位という好成績をあげた成果などを披露した。

「国際なかまプロジェクト」も、メンバーの学生7人が発表した。その国籍は中国、タイ、ベトナム、ミャンマー、モンゴル、韓国、そして日本と多彩。全



国でも五指に入るほど留学生の多い大産大なので、留学生と日本人学生の交流の輪を活発にしたいと感じて始めたというプロジェクトの趣旨、ボランティア活動や各国料理試食会、社会見学会などの活動を紹介した。

●スタンフォード大教授のビデオメッセージも

「超軽量ビークルプロジェクト」は、布施北高校と連携し、原動機付き自転車のバッテリーで走る軽量自動車を製



作してレースに参戦するプロジェクトで、ビデオ映像により紹介された。この夏、来日してプロジェクトに参画したスタンフォード大学の短期留学生、マイルズ・ラムさんや、彼の指導教授であるリチャード・ダッシャー氏からのビデオメッセージが上映された。

さらに、親子による環境自動車の試乗体験会、モノづくり学習など中・高・大

学園創立80周年を祝う会

連携の事例や、各界で活躍する卒業生からのメッセージなどで、「新しい学園力」とは何かが、わかりやすく紹介された。

最後に、大阪産業大学、同短期大学部の籠谷正則学長が、お礼のあいさつ。学生・生徒や保護者の期待に全力で応える決意を述べ、「秘めた力を引き出す学園」「好き!を育てる学園」「発想が集う学園」「スペシャリストを育てる学園」「一緒に進む学園」という具体的な目標を提示し、「私の母校でもあるこの学園のために、また学ぶことのすばらしさに、自らを捧げる所存です」と、覚悟を披瀝。多彩な祝賀会に込めた感謝の気持ちを説明し、改めて変わらぬ支援をお願いした。



そして、合同吹奏楽団による演奏とビデオメッセージで、祝賀会が終了。懇親会は、学校法人清風学園・清風南海学園の平岡英信理

事長の発声による乾杯で幕を開け、参加者は和やかに楽しいひと時を過ごした。出席者の一人、(有)橋本設計事務所の橋本正章社長は「大学の建物の設計をさせてもらっています。学園がどこをめざしているのかよくわかり、我々もその期待に沿えるような仕事をしたいと感じました」と、今後に向けての決意。また生駒キャンパスの地元、大東市奥の池土地改良区役員の樋口実さんは「実は、私の孫も大阪桐蔭高校の卒業生。桐蔭でよく勉強させていただいたお陰で大学進学を果たしました。今日の式典は、学園のことがよく理解できて良かったですね」と、保護者であり、支援者である立場から感想を述べた。さらに、大阪桐蔭高校3年生の保護者の女性は「娘は茶道部所属で



すが、大産大の茶道部の先輩と着付けの大会に参加するなど、積極的に活動しています。この学園ではたくさんの経験ができ、充実した高校生活を過ごしています」と、保護者の立場から学園の教育の成果を語った。

学生、社会、学校が三位一体に

学園創立80周年記念 モニュメント建立

学校法人大阪産業大学は11月11日、本館西側OSUパークに学園創立80周年記念モニュメントを建立し、その除幕式を挙行了した。

建立目的は、学園創立80周年記念事業募金にご寄付いただいた方々のご厚志に感謝し、芳名・金額を学園創立80周年記念モニュメントに刻し、末永く学園の歴史に留めるため。このモニュメントは、彫刻家の金井良輔氏により製作されたもので、三角柱をひねった形で、それぞれの面は「学生あるいは生徒」「保護者・親あるいは社会」と「学校」の三者を表し、三位一体となって三つの立場が一つの形を形成することで、学園教育の堅固なまとまりを象徴したもの。全体の形は、軽くらせんを描きながら、ひねられた三角柱がゆったりと優雅に天空を目指す。支柱部(台座)は円柱の御影石で、ここに明記される募金



者の方々が、一つの「つながり」あるいは「輪」となって、記念事業を支えていただいている事を象徴したものである。

古谷理事長は「90年、100年、未来永劫にこの学園が続くよう、魂を入れていただきました。立派なモニュメントができ喜んでいます。この学園がますます発展するよう、ご支援を賜りますようお願い申し上げます」とあいさつした。

大阪産業大学附属中学・高校、大阪桐蔭中学・高校にも、同様のモニュメントが建立された。



「共に育む」のが うれしい

学園創立80周年を祝う会に、「NeOSU」学生編集部の交通機械工学科3回生の南貴文さんが出席。学生の目を見た式典の様子を報告する。南さんは、クリエイティブセンターの学生スタッフで、ル・マンチャレンジプロジェクトのリーダーでもある。

学生・生徒中心で 回る学園

当日は慣れないスーツ姿で少し戸惑いながら上本町にあるシェラトン都ホテルを目指した。

ホテルに着くと桐蔭生がホテルの側に何人も立っていた。私は、異国の地に足を踏み入れてしまった気がした。ホテルに入るとロビーには、たくさんの大学関係者。顔見知り何人かいたので少し安心した。

受付を済ませ、あたりを見渡すと、すごい数のシャンデリアが輝き、まるで映画の世界であった。フロアの奥半分ぐらいで茶会が行われていた。こんなまであるのかと私は驚いた。なんとそれはホテルの従業員が茶を点てているのではなく、中高大の茶道部の生徒であるのにもっと驚いた。

逆の方を見ると、見慣れた「オキシライドレーサー」が展示されていた。大学で見慣れた「オキシライドレーサー」なのにホテルに飾るとさらに立派なものに見えた。他にもテクノフリーク部のロボットや桐蔭野球部の甲子園優勝旗なども。普通、このような記念式典では、法人の生い立ちや経歴、成果を展示するが、今回の式典では、学生・生徒の活動が大々的に展示されていた。それは、学園が学生・生徒を中心に回っていることを象徴するものだった。

式典は桐蔭高と大産大の吹奏楽部に

よる「ローマの祭り」で幕を開けた。会場は宮殿のような造りで音楽がより一層雰囲気を出した。演奏はすごい、完成されたもので聞いた私はヨーロッパの貴族になった気分になった。

何でもやることで学べる
学園の紹介ビデオが流れた。内容は「こんな大学でこんながすごい」というものである。ビデオは終始教員と学生や学生間のつながりの大切さを主張していた。うちの大学は確かにそのことがすごいと思う。学内を



歩いていて学長や法人の人にこんなに頻繁に会い、あいさつを交わす大学はほとんどないと思う。他大学の学生に聞くとみんな「学長の顔なんか見たこともない」という。

そして理事長のあいさつが始まった。「これまでをこれからに変える」というキャッチフレーズは印象的だった。続いてプロジェクト共育の活動報告が始まった。初めに学生フォーミュラが発表した。発表の内容は今年の大会への参加までの道のりと大会の成果だった。発表しているメンバーに知っている顔がちらほらいてびっくりした。それも4回生ではなく、1回生がやっていて貫禄すら感じられた。プロジェクト共育の良さはここにあるのだろう。要するに何でもやることで学ぶこ

とができるということだ。一方的に聞く講義より学生も楽しい。やる気や達成感も得られると思う。

次は国際なかまプロジェクトの発表が始まった。国際なかまプロジェクトは、今年の活動内容についてだった。そのあと学長のあいさつで「共に育む学園にする」という言葉で式典の1部は終わった。

私はこの式典に出て、率直にうちの



大学らしいと思った。普通の記念式典だと「本学園は誰々が創立し」と学園の自慢話になるのだと思う。それに比べて学生の等身大の取り組みを発表するなど終始学生中心で2時間に及ぶ第1部は退屈することなくあっという間に終わった。

目玉になるものが多かったが 第2部の懇親会で大阪産業大学生と卒業生にこの日の感想を聞いてみた。

産大生 桐蔭の優勝が80周年に花を添えていてすごくよかった／プロジェクト共育の発表機会をもっと作ってほしい／厳かではありながら実際に学生が製作したものなどを見られたのが良かった／目玉になるものが多かった／自分たちの知らないところでの活躍とこんなことをやってくれている人に感謝。

卒業生 技術力を身につける学校から創造を生む学校になっている／こういった実績そのものが素晴らしい／昔に比べ学生が賢そうな顔つきになっている／今後ともプロジェクト共育に期待したい。

(交通機械工学科3回生 南貴文)



●大産大モーターショーなど 多彩な催し

学園創立80周年記念事業の一環として、卒業生や元教員の皆さんを母校にお迎えして交流、親睦を深める初の「ホームカミングデー」が、11月2日、本学キャンパスで校友会総会と同時開催された。卒業生のお子さんなどご家族にも参加していただき、楽しい一日を過ごしてもらおうと、あえて学園祭「阪駒祭」期間中のこの日を選定し、校友会との共催で開催。懇親パーティーや「お楽しみ抽選会」、大学の現況を現役学生がガイドする「大産大キャンパスツアー」、写真で見る「大産大の歴史展」「大産大モーターショー」「ものづくり体験教室」、さらには「産学連携コーディネートコーナー」や「卒業生子女入試相談コーナー」の開設、大学祭企画の「無料吉本ライブ」など、多彩な行事と展示に大勢の参加者があり、楽しく意義深い一日となった。

新設された自動車整備センターを会場に開催となった交流・懇親会には、約350人の皆さんが参加。まず、美内照男校友会長が「学園創立80周年にあたる本日の校友会総会は、大学主催の第1回のホームカミングデーと同時開催となりました。この自動車整備センターは80周年記念事業の一環として建設されたもので、今日がそのこけら落としてもあります。大阪産業大学の卒業生として、大学がこうに立派になっていることを心から喜んでいます」などとあいさつ。

続いて古谷七五三理事長が

初のホームカミングデー開催

和やかに、
にぎやかに

卒業生や元教員集い



「80周年を迎えることができたのも卒業生の皆様や諸先輩方のおかげ。この80周年を契機に新たな一歩を踏み出し100年、200年、未来永劫に続く学園をめざして頑張りたい。この自動車整備センターの他、クリスタルテラスも記念事業の一環として建設しましたが、そういう施設整備もさることながら、学生たちは本学独自のプロジェクト共有に取り組み、学園の評価を高めてくれています。我々教職員は今後も、学園発展のために尽力する所存です」と、引き続いての支

援をお願いした。

また、籠谷正則学長は「80周年記念事業の一環として初のホームカミングデーを開催したのは、大阪産業大学が今どうなっているのか、どれだけ発展しているのかを知っていただき、また卒業生の皆様同士、あるいは恩師の先生方とのきずなを深めていただくことが目的です」と趣旨を説明。さらに、スポーツ健康学科の新設や志願者の理系離れなど大学の現況について説明し、学部学科の改組など積極的な改革でこれを乗り越える覚



悟を表明し、卒業生の皆さんのご理解、ご協力をお願いした。

●ネッピー、リブシーもお祝い

校友会からの80周年記念事業募金の目録贈呈、校友会永年勤続者表彰に続いて、懇親会へと移り、スポーツ健康学科が協定を結ぶプロ野球、オリックス・バファローズ球団のマスコット、ネッピーとリブシーが登場。二人が、第1回のホームカミングデーを祝ってダンスを披露すると会場は歓声に包まれた。その後、ネッピーとリブシーは、卒業生の皆さんらが旧交を温める会場を巡り、ともに記念撮影などに応じた。また、元教員の方々が紹介され、それぞれ近況報告や大学へのエールなど元気にあいさつ。和やかな雰囲気の中、楽しいひと時を過ごした。

参加した元教員の一人で工学部都市創造工学科の芹生正巳さんは「教え子もたくさん来ていて懐かしい限りです。このホームカミングデーのように、大学がおおいに卒業生と交流し、校友会を支援して行けば、子弟もたくさん大学に来てくれるでしょう」と、初の試みの成功を喜



び、今後の継続を望んでいた。大産大名誉教授で、大学硬式野球部の部長も務めた石原肇さんは「野球部がこの秋の阪神大学野球連盟リーグ戦で優勝してくれたのは、80周年を祝うにふさわしい快挙。ゼミの同窓会が大学で開催されていたので、大学にはよく来ていたのですが、今日は元教員同士の交流もできて喜んでます」と、笑顔で話した。

母校の発展ぶりには多くの卒業生も驚いていた。市村莞爾さんは工学部交通機械工学科第1期卒業生。「何年か前、外環状線を車で走っていると、見慣れない大時計のある立派な建物が建っていて、母校はどこに行ったのかと思ったら、それが今の本館だったなどということもありました。ホームカミングデーなら、そういう母校の変化、発展ぶりがよくわ

かっていいですね。この立派な自動車整備センターにも感心しています」と在学当時は考えられない設備の充実ぶりに感心しきりだった。

開催の趣旨にふさわしく、会場には家族で参加した卒業生の姿も多かった。その一人、1999年に経営学部を卒業した応武真紀さんは、やはり、工学部電気電子工学科の卒業生である夫の喬之さん、3人のお子さんと参加。「新聞などには、他の大学のホームカミングデーの告知がよく掲載されているのに、卒業生を大事にしてくれる大阪産業大学で、なぜやらないのかと今まで不思議に思っていました。だから、今日はうれしくて家族総出できました。来年もぜひ参加したいですね」と、初の試みを心から喜んでいる様子だった。

講演、プロジェクト報告、ものづくり教室開催

ホームカミングデーの一環として、クリエイトセンターでは、近隣の子供や卒業生の家族向けのシンポジウムを開催した。来場者は延べ85人とたいへん多くの方が来訪して下さいました。

シンポジウムは、才原篤講師による講演、学生によるプロジェクト報告、ものづくり教室。才原講師はクリーン・エネルギーピークルとはどのようなものか、企業はどのような取り組みをしているのか、大阪産業大学でしていること等を講演した。

学生によるプロジェクト報告は「ル・マンチャレンジプロジェクト」「鳥人間プロジェクト」「EVプロジェクト」「学生フォーミュラー参戦プロジェクト」「超軽量ピークルプロジェクト」。クリエイトセンターで主に活動しているプロジェクトのメンバーが内容説明をした。

その後、子供たちや家族と一緒にミニチュアソーラー



カー作りをした。子供たちには少し難しそうだったが、家族で楽しく作ったようで、「今日は楽しかったです！ありがとう」という言葉に、夜遅くまでかかった準備などの苦労が一瞬で吹き飛んだ気分になった。「来年はもっと多くの笑顔が見たい」そんな気持ちでシンポジウムを作っていきたいと思う。

(情報システム工学科2回生 足立大地)



全種目完走！

学生フォーミュラ 参戦プロジェクト



チーム名は **OSU Racing**

2008年度第6回全日本学生フォーミュラ大会は9月10～13日に、静岡県の小笠山総合運動公園で開催されました。

国内外から77チームがエントリーし、書類審査を通過した66チームで競われました。大産大は、31位ながら全種目を完走し十分満足できる結果となり、昨年の車両トラブルによる悔しい思いへの雪辱を果たしました。

全日本学生フォーミュラ大会は、学生たちが自ら製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーの構想、設計、コストから走行、燃費性能までの「ものづくりの総合力」を競うものです。約1年にわたって製作してきた車の総合的な評価がこの大会で問われます。

喜びと反省が交錯

大会1日目、昨年は4回も再車検を受けましたが、今年はテキパキとしたピットワークで車両セッティングを終え、1度で技術車検に合格できました。その喜びもつかの間、車体傾斜試験で不合格。輪重計測してみれば左右の値が大きく違っていました。ばねの固さを調整して再試験で何とか合格しました。その後、音量測定でマフラーが破損

してしまいましたが、持ってきていた消音効果の高いマフラーでの再測定で何とか合格となり、喜びと反省の一日でした。

2日目に入り、ブレーキ試験を順調に合格した後、待ちに待った動的種目に移りました。まず、0-75km/hのタイムア



吸気系の点検



車両重量測定

やっってます！ プロジェクト 共育



プラネタリウムの内部

満天の星を出前します

OSUプラネタリウムプロジェクト

OSUプラネタリウムプロジェクトは、プラネタリウム（投影機、ドームスクリーン、コントロールボックス）を研究し、製作するのが第1段階。第2段階は、プラネタリウムを使って、地域の小中高生を対象に投影会を開き「理科離れ」ストップの一助になりたいと考えています。このプロジェクトは、独立行政法人科学技術振興機構の2008年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト事業の講座型学習活動に採択されました。採択されたテーマは「プラネタリウム製作で身近に感じよう！理数科目」です。

オープンキャンパスでの
プラネタリウム外観

プロジェクトの 目的は？

科学の素晴らしさに目覚めてくれば、理科離れが少しでもくい止められるのではないのでしょうか。それが私たちの原点です。理科に少しでも興味や関心を持ってもらえ

プラネタリウムを見て宇宙の神秘に触れることで、自然や

たらと考えてプロジェクトを立ち上げ、プラネタリウムの製作に取り組んでいます。

製作と言いましたが具体的に何を作っているのかというと、星空を投影するために、必要なものすべてです。例えば、星を映し出す投影機やドームスクリーンなどです。しかも、私たちが作っているのは移動が可能なプラネタリウムなのです。つまりピザやそばのように出前ができるのです。

プロジェクトの 特徴は？

このプロジェクトの特徴は理科系、文科系を含め様々な学科の学生が参加していることです。現在参加している1回生はみんな別々の学科です。物作りをしているので工学系の人しか





チルト試験

タック、続いて8の字走行です。昨日交換した高音消効果(?)のマフラーのおかげでエンジン馬力は上がり、タイムは低調でした。加えて、サスペンションのセッティングがうまくいかずに車両も安定性を欠きました。

次のステップへ一致団結

3日目、いよいよ最終種目の22週の耐久走行です。ここで、競技周回数も半ばで燃料の片寄り症状が起き、コーナー出口で吹き上がらなくなりました。それでもドライバー、メカニック、タイムキーパーなどチーム全員が頑張り、何とか全種目を完走することができ、本当に感動の一言でした。

この大会に参加したのは、学生フォー



ミュラ参戦プロジェクト。昨年度発足したばかりで、メンバーは1回生から4回生まで18人。学生自らの手で全日本学生フォーミュラ大会に出場する競技用フォーミュラ車両の企画から設計・製作までの活動を行っています。

メンバー全員が交通機械工学科の学生であり、自動車構造論、自動車運動性能論、原動機学などの交通機械工学科の授

業で得た自動車工学の専門知識をそのまま車両づくりに実践しています。

次年度の車両づくりはもう、始まっています。さらに高性能なマシンを設計して走らせるためにチーム一致団結して頑張りたいと考えます。

●チーム代表

交通機械工学科2回生 芳原利典



大阪信愛女学院での上映会

参加できない、参加してもすることが無い、なんてことはありません。ドームを作る際は強力な糊と裁縫を駆使し製作しなければいけないのです。この作業に学部学科は関係ありません。また、実際にプラネタリウムを上映するときの解説は、私たちが上映プログラムを考えてお客さんに聞かせますので、そのためのストーリーを考えなければなりません。ですから学部は関係ありません。むしろ工学部は専門外かも？

プロジェクトの成績は？

今日までの活動としては、本学のオープンキャンパスで4回上映しました。それ以外にも大阪信愛女学院中学・高等学校では、プロジェクト活動で製作している本学オリジナル原板(星のもと)を使い上映会を行いました。生徒たちに目をつむってもらい、目を開けると1万個の星が映し出され、大きな歓声が上がりました。星座にまつわる神話の説明などに興味を持ってもらえました。「また、ぜひ見せて欲しい」や「宇宙に興味を持てたので、本を読んでみます」などの感想をもらえました。

現在上映会には、大阪市立科学館のドームスクリーン、直径7m、最大収容人数80人の国内最大級のモバイル(移動式・簡易)・プラネタリウムを借り受け活動中です。プロジェクトでは、いろんな教室でも使えるように、直径4m、20人前後が入れるドームスクリーンを現在制作中です。完成後には作ったプラネタリウムを使って様々な場所で上映会を実施していくつもりです。



ドームスクリーンの製作

プロジェクトメンバーの募集

現在活動メンバーは4回生3人と1回生4人で活動しています。つまり次年度には2回生4人だけになってしまうので、少しでもOSUプラネタリウムプロジェクトの活動に興味を持たれたあなた、参加してみたいなと思った方は、話だけでも聞きに来て下さい。活動場所は4号館1階4101教室です。ほぼ毎日作業をしていますので、お待ちしております。

●プラネタリウムプロジェクト代表

機械工学科4回生 福田真実

金融危機の就職不安は乗り越えられる

今こそ適性を見極め 力を蓄えよう

これから
就職活動される
みなさんへ

●キャリアセンター長 武内清利

2009年度の就職戦線は、世界同時金融危機による企業の業績悪化の影響で、厳しくなると言われています。これから就職活動を行う3回生の中には、不安を募らせている学生さんもいることでしょう。しかし、心配しないで下さい。本学の場合は、07年度の求人件数が6409社ですが、今月に約200社の企業がキャリアセンターに求人て来られるなど08年度は昨年度を上回る件数になるものと思われます。大阪産業大学は就職に強い大学です。不安に萎縮することなく胸を張って就職活動に立ち向かって下さい。

学生みなさんは、まずは自分の適性を見極め進みたい業界を研究しながら、本学で学ぶ知識に加えて一般常識や語学などの力を蓄え、勇気を持って就職活動に臨んでいただきたいと思います。

キャリアセンター（本館・11号館2階）では、みなさんが安心して活動できるように強力な支援体制を設け、18種の支援プログラムを用意し全力で支援しますので共に頑張りましょう。

接の時に役に立つかなと、社員さんとの座談会には出ました。

森 相当受けたでしょ。どのくらい受けたの？

亀井 そうですね、エントリーシートで60社くらい出したんですが、実際受けたのは半分ぐらいですね。

森 中西さんはどうだった？

中西 1月末から大学内のセミナーに行き始めて、その場で3社に説明を聞きました。そのうちの1社受けて3月末に内定もらいましたね。どこに縁があるかわかりません。

自分のしたいことを語った

森 就活で勝ち取った決め手や行こうと思った理由とかを教えてほしいな。亀井さん、ホンダには行きたかったの？

亀井 はい、もう大学入ってからホンダにはずっと行きたかったですね。

森 じゃあ初志貫徹！すごいね。

亀井 はい、車やバイクの部品をいじるところで業種を絞ってたんです。

森 内定を取れた決め手となったのは？

亀井 やはり会社の求める人材像と合って「こいつなら辞めんと続けてくれるやろ」と思ってくれたんじゃないですか？（笑）

森 なるほど、じゃあ国際経済の永田さん。ここに決めた理由は。

永田 人間関係…、というか雰囲気とか、人が一番合うと思ったからです。僕の行こうとしたところはいろんな大学の人がいる、仕事するにはやっぱりいろんな人の中での人間関係が一番だと思ったんです。

太田 私はまずインターンシップで間組を知ったんですが、トンネルやダムを作る仕事をしたくて。間組は全国規模なんでそこにしました。

森 面接で、自分のどういうところを売り込んでいったんですか？

太田 温泉掘削プロジェクトをやってきました。インターンシップも行きましたので、とにかく自分のしたいことを語りました。

森 永田さんはどういうことを言ってきたの？

永田 野球が好きで、ここぞと売り込むときは、高校で挫折してあきらめようとしたけど頑張ってレギュラーを取った話をしました。

森 じゃあ機械工学の亀井さん。

和田 1月下旬からリクナビやマイナビの就活イベントに参加し始めました。会社説明会は早いところで2月上旬に始まりました。内定先は4月末に履歴書を提出し、筆記試験、面接があり、7月上旬に内定をいただきました。

永田 1月中旬に始めて、2月から本格的に説明会に行き、大体30社くらい回りました。3月には試験や面接で10社弱くらい受け、決まったのが4月上旬ですね。

森 じゃあ2月で30社というのは説明会で説明を受けた会社？

永田 ええそうです、受験したのは8社です。

森 でもエントリーシートはたくさん出したでしょ？

永田 20くらいですかね。4月の初めに損保ジャパンが受かり、すぐエントリーはやめました。

亀井 僕の就活は年明けくらいからリクナビに登録して、もう2月の初めから毎日動いていました。試験と面接の連続で…。4月に入ってからは大分落ち着いてきて10社くらいになり、ゴールデンウィークでいったん止めたなら推薦のお知らせがきたのでその時点で他社の活動は止めました。

森 受かったホンダにはいつからエントリーしてたの？

亀井 11月にはエントリーしました。面

自信を持って 社会へ踏み出そう

—就職活動を振り返って—
内定者座談会

世界的な金融危機などで景気の先行きに不透明感が強まる中、2009年春の就職内定を決めた卒業予定者6人に就職活動の苦労や成果、後輩へのアドバイスなどを聞いた。聞き手は、経済学部森吉弘・客員教授。経営学部経営学科1回生の浜田孝二さんが記録・原稿作成役を務めた。

縁はわからない

森 どんなスケジュールで就職活動したかを教えてください。

太田 2月ごろから説明会に行き始めて、志望が絞れていたのでも5社くらい受けて、4月に学校推薦で間組に受かりました。

丁子 毎週2社ほど回っていました。



森吉弘・客員教授

亀井 アピールしてきたのはコミュニケーション能力と積極性の2点ですね。ボランティアでラジコンショップが主催するレースの運営を手伝ってました。店のサイトを借りて何日にやるなど全部決めましたね。大会で多くの人と会ってきたので人見知りを克服できた自分をアピールしました。

和田 私は小学生の時から習っている珠算について話しました。

和田 筆記試験や面接で落ちてなかなか次に進めなかったことです。20社程受けて内定をいただいたのは2社でした。

森 就職活動で学んだり、気づいたりしたことは？

中西 本社の名古屋に行くのに、地図は用意していたんですが道に迷って、知らない人に聞いたら皆さん親切にしてくれてうれしかったです。

太田 ふだんの人間関係が大事だと改めて思いました。ゼミの先生やキャリアセンターの人とか友達とか、相談すればちゃんと応えてくれて、こうすればいいとか言ってくれました。

丁子 私は、自分を良く見せようと飾ったり、生半可な知識で話すのではなく、ありのままの自分を出せば良いんだ、と改めて感じました。

たまには遊びやバイトも



※カッコ内は内定先

一生がかかっていると思った

森 就職活動中、失敗談や辛かったこととかは？

中西 先に面接だといんですが、エントリーシートを送るだけで切られるのが辛かったです。行きたかった航空関係がそれだったんで余計に。

亀井 辛かったことは面接じゃなくて、テストやエントリーシートで落とされたことです。2月くらいは5通送ったら3通落ちることもありました。

永田 辛かったことは体力です。睡眠時間が全然なかったし、自分の時間も持てなかったし、それも入社試験対策に追われていたので体力的に辛かったです。

亀井 いろんなことに自信を持って取り組めるようになりました。面接の時は周りが自信なさげだったら、自分もどうなったんだろうという感じでした。後半は緊張があるくらいがちょうど良いって感じでした。自信を持って「こういう理由で受けました」というのもちゃんと言えました。相手がうなずいてくれたりだとか、ちゃんとできると、受かりましたね。

永田 ええと、好きじゃないことも死ぬ気でやればできると思いました。野球は好きでずっとやっていたけど、就活は一生がかかっていると思ってやりました。

和田 人と話すことを学びました。説明会や試験で一緒になった他大学のひととたくさん話しました。また面接を通して目上の人と話すことに慣れていきました。

森 大産大にいて、ここでよかった、と思えることを教えて。

永田 ゼミの新保先生が一人一人面倒見てくれることです。時間を割いて相談にも乗ってくれるし、受け答えもしてくれるし、口すっぱく言ってくれるし。それで4月になってから毎回毎回授業の前に発表させるんですよ。就職活動について。そこがよかったです。

中西 良かったことは、先生や職員の方が親身に相談にも乗ってくれることです。最初キャリアセンターに行ったときは髪も染めていい加減だったんですが……。

丁子 キャリアセンターの方たちは、最後の最後までサポートして下さいました。一人で悩んでいるより、まず相談してみてください。

森 最後に後輩に一言お願いします。

和田 たまには息抜きで遊んだりバイトをしてもいいと思います。気持ちを切り換えて就職活動を頑張ってください。

中西 素直に言ったり、行動したりすると一番いいと思います。

亀井 ちゃんと自信を持って、自分のことを、これがしたいとかを企業にもちゃんと伝える事です。能力適性や性格適性を見るSPI試験は、1年前から早め早めに準備すれば自信を持てると思います。

永田 勉強は早いうちからしたほうがいいのと、あと根性です。落ちたときの心の強さがあると思います。

太田 早めから動くのが良いと思います。インターンシップも早い企業は8月からやっているから、行ってみると業種も絞れて良いと思います。

丁子 最初から業種・職種を決める必要なんてないよ。たくさん会社と出会ってみてください。とにかく最後まであきらめないで！



花嶋先生の

おもしろ研究室

大探検

学内おもしろ研究室の大探検。今回は、機械工学科の中村友道教授の研究室をお訪ねします。機械工学科、それも振動の研究とはいったいどんなものなのか興味津々です。

(生活環境学科講師・花嶋温子)

みんなで昼ご飯食べ 頑張る研究室

花嶋 はじめまして。あれっ？この外国のクッキーどこかのおみやげですか？

中村 ええ、M1（大学院博士前期課程1年）の学生をモンリオールの大学に留学させているので、学会のついでに様子をみてきたところなんです。

花嶋 振動の研究で、この研究室が世界の最先端だとお聞きしましたが。

中村 確かに、世界の最先端です。というのも、みんながやっていない分野の研究だからですよ（と謙遜）。先ほどの留学している大学院生もまさに、その流体中の振動をテーマに留学しています。ちょうどこんな本を出版したところ（英文で書かれた本のタイトルは「Flow-Induced Vibrations Classifications and Lessons from Practical Experiences」）。

花嶋 すごい！けどわからない。

中村 流体中での管の振動の研究です。みなさんがご存じのところでは、高速増殖炉「もんじゅ」の温度計保護管が振動で壊れたというような話です。管の周囲を液体が流れることによって振動が発生する、その仕組みを研究しているのです。

花嶋 この四角い管の中に水を流して上からカメラで観察しているのですね。学生さんたちも熱心ですね。（学生たちに）研究は楽しいですか？

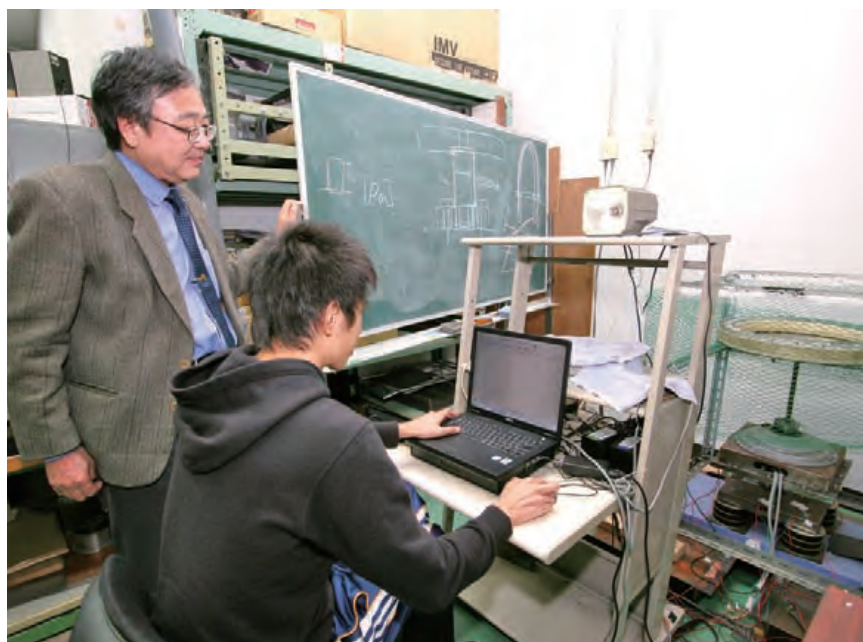
高橋（大学院1年） 大変だけど面白いです。パソコンの使い方から教えてもらい、自分で実験をやれるようになりました。中村先生は、とても面白くてメチャクチャに頭のいい先生です。実験方法なども何回でも教えてくださいます。

中村 それじゃあ教え方が下手と言っているみたいじゃない？

高橋 いえいえそんなことはありません（笑）。

工学部機械工学科
中村友道 研究室

ポニョと洗濯機と 世界最先端の振動研究



流体バランサー装置（別名：洗濯機）の実験

花嶋 尊敬できる師匠がいて、身近に交流できるというのは、素晴らしいことですね。

橘（4回生） 先生をみていると、すごいなあ、勉強しないとイケないなあと真剣に思います。

花嶋 研究室はどんな雰囲気ですか？

橘 みんなで昼ご飯を食べてます。仮眠したりとか（笑）。

「わからない」の 解明に取り組む

花嶋 居心地がいいんだ（笑）。あれっ？あちらのほうの学生はポニョ（花嶋が勝手に命名、中村研究室ではダンパー班と呼ばれている）と遊んでる？

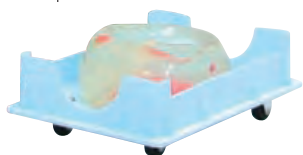
中村 あれは、全く新しい制振装置を開



「ポニョ」を小型加振装置に乗せて実験

発しているのです。

花嶋 装置というよりは、おもちゃみたいですね。今年の夏に「崖の上のポニョ」という映画が流行りましたが、なんとなく「ポニョ」っとしていて。



ポニョに乗せた台車

以前、たまたま風船に水を入れたものを手でグニグニユして、その動きから制振装置に使えないかと思いつきました。ゴム製のボールに中途半端に液体を入れた、全くのオリジナルな制振の仕組みで特許もとっています。

花嶋 えっ、つぶれませんか？

中村 下に敷くのではなく、建物の天井に乗せて耐震性を高めたり、自動車に乗せて急発進の制御をしたりするという使い方を考えてます。

花嶋 ああ、上に乗せる。

中村 研究を始めて4年目です。中に入れる水の量を変えてみたり、粘度（液体の粘り気）を変えるために水の代わりにネバネバのシリコンを入れてみたり、洗剤を入れてサラサラの液体にしてみたり試行錯誤しています。

花嶋 ああでもない、こうでもないやってみるのは、ものづくりの原点ですね。

中村 だいたい、なぜこのゴム袋に入れた水が制振に効くのかという本当の機構もまだわかっていません。

花嶋 振動の減衰に効くという現象は明らかだけれど、なぜそうなるのかわからない？

中村 中の水の移動が効くのか、表面の質量の移動が効くのか。去年はその機構

の解明に一所懸命に取り組んできましたが、まだ完全にはわからない。

アイデアの具体化へ 洗濯機と向き合う

花嶋 アイデアからはじまって、その物理的機構を明らかにしたり、使い方を考えたり、その過程を体験できるのは面白そうですね。あちらの学生は、ペットボトルを重しにして車の急発進を再現しようとしているのですね。おっと、ポニョに乗せた台座と重しをつないでいるタコ



流動振動試験装置で実験

糸が切れた。頑張れ〜！ さて、こちらの隅では、なにやら回転するものと向かい合っている学生がいます。

中村 研究室のもう一つのテーマが洗濯機の制振です。とあるメーカーと共同で研究をしています。脱水時の回転数を上げたい、でもそのためには振動をどう抑えるかがポイントなのです。日本の洗濯機が振動制御では世界一だとして存じでしたか？

花嶋 そうなんですか。

中村 ええ、住宅が狭いので、振動や騒音が問題になるのです。海外の洗濯機に

は、振動を抑える装置自体がついていないことが多いです。

花嶋 そういえば、夜でも近所迷惑にならずに洗濯できる機能が宣伝されていたりしますものね。

中村 洗濯機の振動を抑えるのに、流体バランサーというものがついています。

花嶋 私は廃棄物処理計画が専門なのですが、そういえば家電リサイクル施設で洗濯機のリサイクルをする時の最初の工程が塩水を抜くという作業です。洗濯機に塩水？と少々不思議な感じがしたので

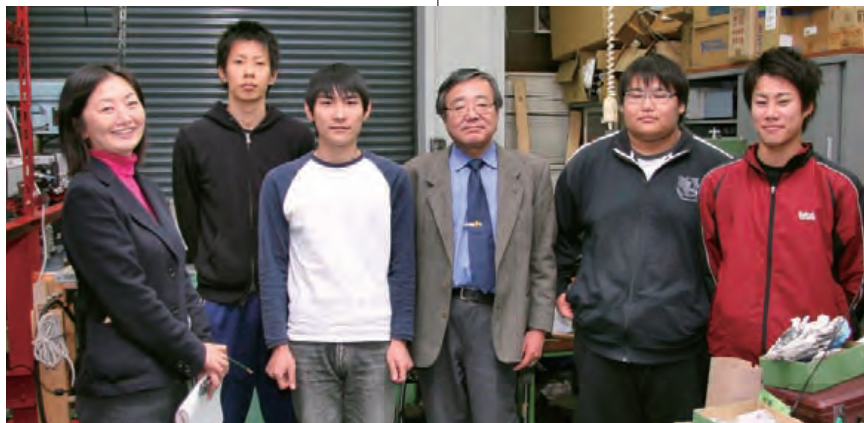
覚えていました。

中村 流体バランサーの中の液体が「塩水」なのかどうかは知りませんが、洗濯機の振動を抑えるために流体（液体）が使われているのは確かです。

花嶋 流体と振動とくれば、中村教授のお得意分野ですね。

中村 ちょっとしたアイデアを具現化するために、学生たちが日々洗濯機と向き合っています。どんな仕組みかは、「企業秘密」なのでまだ言えませんが。

花嶋 世界の最先端の振動研究と、ポニョと、洗濯機の話が、すべて一つにつながりました。アイデアが具体的な装置になるまでには、自由な発想と地道な実験とが共存している必要があるのですね。そんな素敵な場にいる学生のみなさん、実験を頑張って下さいね。中村教授、ありがとうございました。





高校3球技

守って、つないで全国大会初出場

大阪桐蔭高サッカー部

●第87回全国高校サッカー選手権大阪大会の決勝が11月15日、大阪・長居スタジアムで行われ、大阪桐蔭高校サッカー部が近畿大学附属高校を1対0で破り、初優勝した。桐蔭高は12月30日から東京・国立競技場等で行われる全国大会に初出場する。

桐蔭高は前半、得意のパスワークが近大附高の速いプレスに抑え込まれてバックパスが多くなり、それを狙われた。しかし後半は、本来のパスワークで相手を揺さぶり、サイドから相手守備の裏を突き攻めた。後半34分、スローインを矢野選手がゴールライン付近まで持ち込んでセンタリングを上げ、ゴール前に詰めていた永澤選手が相手をかわして決勝点をゴール左隅に決めた。

永野悦次郎監督は「勝てて本当にうれしい。野球だけでなくサッカーもようやく全



国の舞台に立てる。大阪の代表に恥じない戦いで、日本一になれるよう頑張りたい」とインタビューに答えた。

主将の清水良平選手は「後半は自分たちのしっかり守り、つなぐサッカーができた。自分たちのプレーを出せば、全国でもい

い試合ができると思う」と健闘を誓った。

◇大阪桐蔭高の決勝トーナメント戦績◇

- 2-0 興国高
- 1-0 履正社高
- 1-0 金光大阪高
- 1-0 近大附高

耐えて5たび全国の舞台へ

大阪桐蔭高ラグビー部



●大阪桐蔭高校ラグビー部は11月9日、東大阪・近鉄花園ラグビー場で行われた第88回全国高等学校ラグビーフットボール大会大阪府予選の第2地区決勝で、同志社香里高校と対戦。接戦の末17対12で勝ち、2年ぶり5回目となる全国大会出場の切符を手にした。

試合は前半の13分、同志社香里に独走トライを奪われ先制を許したが、桐蔭高は

21分に山本昌選手が左スミに同点のトライ。しかし4分後、同志社香里にトライとゴールを決められ再び追う展開に。桐蔭高は27分、岩谷選手が左スミにトライを決め10対12で前半を折り返した。そして後半11分、ゴール前のラックから松本選手がトライ。ゴールも決まり17対12と逆転に成功。終了間際、同志社香里に攻め込まれたが、そのまま守りきった。

試合後のインタビューで山本昌太主将は「苦戦したが勝ててうれしいです。全国のレベルは高いと思うが、全国優勝が目標です。一戦一戦足元を見据えて頑張ります」と語った。

◇大阪桐蔭高の予選戦績◇

- 121 - 0 清教学園高
- 53 - 12 関西創価高
- 44 - 0 日新高
- 17 - 12 同志社香里高

目指せ日本一!

圧勝で2年連続全国決勝へ

大産大附高アメフト部

●第39回全国高校アメリカンフットボール選手権準決勝・関西地区決勝が11月16日、大阪・長居球技場で行われ大産大附属高校アメリカンフットボール部が立命館宇治高校を42対27で破り、2年連続10度目の決勝進出を決めた。決勝の「クリスマスボウル」は12月23日、神戸・王子スタジアムで行われ、大産大附高は関東代表の早大学院と対戦して2年連続の全国優勝を目指す。

試合は、第1クォーター2分24秒に山崎選手のタッチダウンで先制。8分27秒には井上選手が約50ヤードを独走してタッチダウンを奪い14対0とリードした。11分20秒にパスからタッチダウンを奪われ7点差に迫られたが、第2クォーターはラン攻撃で猛攻。3分3秒、5分12秒のタッチダウンの後、パスを絡めて10分3秒にもタッチダウンを奪い35対7とリードを広げた。第3クォーター開始早々、立宇治高にリターンタッチダウンを奪われるが3分24秒に井上



選手がタッチダウンを取り返し、第4クォーターに2タッチダウンを許したものの42対27で圧勝した。

山崎隆夫監督は「立命館宇治高の短いパスは構わないが、ロングパスは警戒していた。周りから今年の産大高は強い、勝ってあたりまえと言われ、プレッシャーがあっ

た。決勝まで1度休憩して、その後チームを作り直したい。今年は40～50点取る」と話した。

◇大産大附高の関西地区大会戦績◇

- 64— 0 南山高
- 56—14 啓明学院高
- 42—27 立命館宇治高



レストランマナベル

ヘルスサポートルーム

「Wellness 2008」竣工

人間環境学部スポーツ健康学科

●中央キャンパスの南側、関西電力変電所との間で建設が進められていた、大産大人間環境学部スポーツ健康学科校舎兼体育館「Wellness 2008」の新築工事が終了。11月12日、施工業者立会いのもと役員による竣工検査が行われた。

建物は鉄筋コンクリート造り、地上4階建て、延べ床面積4851.92平方メートル。1階にはヘルスサポートルーム、アクアルーム、



レクチャールーム



体育館

4階まで吹き抜けの体育館、救護室、更衣室、シャワールームなどが、2階は、セミナールームが4部屋、測定室、トレーニングルームなどが、3階は、教員研究室が10室、フィットネススタジオなどが、4階は、

154席のレクチャールーム、教員研究室が5室、会議室、レストランなどが設けられ、建物の東側にはグラウンドも設置されている。12月から移転作業が行われ、1月に使用開始される予定。

「エコ学園祭」に3万人

「燃え上がること祭りが如し」第43回阪駒祭

●大阪産業大学・短期大学部の第43回阪駒祭は「燃え上がること祭りが如し」をテーマに、11月1日から3日まで中央キャンパスを舞台に開催された。

初日は晴天に恵まれ、午前10時からの開会式を皮切りに、野外ステージでは、吹奏楽部の演奏、身体能力対決の参加型イベント、ダンスサークルによるダンスパフォーマンスなどが行われた。体育館では、初日を締めくくる「ET-KING」のライブが開催され、会場内は大変な熱気に包まれた。

2日目も好天に恵まれ、プロレスのパフォーマンス、吉本ライブ、「KID-RYO」の無料ライブ、吹奏楽部と軽音楽部によるスカバンドライブが、体育館では体育祭が行われた。クリエイティブセンターによるものづくり教室では自作ソーラーカーも人気を

博した。

3日目は、武道系クラブによる演武祭、無料ライブ、連日の吉本ライブ、カラオケ大会、ジャグリングのパフォーマンスやビンゴゲーム大会などが行われ、ダンスパーティーで締めくくった。

16号館前にはフリーマーケットや巨大バルーンの遊具が設置された。各クラブや団体の50を超える模擬店、経済学部の開ゼミナールや文科系クラブ、プロジェクト活動の展示なども行われた。今回も、環境サークル「ecoっちゃん」の協力で「エコ学園祭」としてゴミの分別が徹底され、分



別は8種類。エコトレイを利用する店舗が数多く見られた。

来場者数は3万133人だった。

5000人来場で大にぎわい

「Memorial」大阪桐蔭中・高文化祭

●大阪桐蔭中学・高校は11月3日、本館及び東館で「Memorial」をテーマに大阪桐蔭2008文化祭を開催した。祝日とあって会場は、保護者や卒業生、近隣の人など多くの来場者で終日大にぎわいだった。



本館玄関前駐車場や東館前グラウンドには、中学・高校各クラスやクラブの模擬店のテントが所狭しと立ち並んだ。毎年恒例の桐友会の「恒例バザー」が中央キャンパス本館地下食堂を会場に行われ、開場1時間前には一般客が長蛇の列をつくった。

イベント会場の本館地下1階リパティホールと東館小講堂では、生徒有志による演劇や合唱、ディベート、英語弁論も催された。クラシックギター部による演奏、ブラスバンド部による「アゲハ蝶」などの演奏も披露され、本館西側の憩いの庭野外ステージでは、高校Ⅲ類吹奏楽部が澄んだ音色と抜群のハーモニーを披露し聴衆を魅了した。

本館や東館内では、恒例の茶道部のお茶会、箏曲部による演奏会が催されるとともに、各クラブやクラスごとに趣向をこらした展示や催し、実演などが教室で披露され、来場者約5000人を楽しませていた。



設備の立派さに驚きと期待

大産大経済学部の公開ゼミを大産大附高の生徒が見学

●大産大経済学部が公開ゼミナールに大産大附属高校からの入学予定者を招く「入学前大学案内および公開ゼミナール」を11月1日に実施した。

公開ゼミナールは、毎年大学祭期間中に開く経済学部3年生による自由研究発表大会で、午前中に予選会を行い、午後に決勝戦を行っている。この公開ゼミに大産大附属高の生徒を招いたのは、本年度が初めての試み。入学時に大学へのスムーズな移行を促すのが目的だ。

参加したのは、経済学部へ入学を予定している生徒約70人。午後1時過ぎに本館前に集まった生徒を韓福相・経済学部長と喜多見洋教授が出迎えた後、当日の予定説明を行い、2班に分かれて、公開ゼミナールの決勝とパソコン演習室、マルチメディア室、スタジオなどを見学した。見学後には、感想レポートを作成し、同時に開催されている大学祭に参加して解散となった。

参加した生徒は「ゼミ発表を聞いて、自分にこんな発表ができるか心配になりました。経済学部に入るからには、今のうちに経済を勉強しておこうと思いました」「ゼミ発表は、内容が難しかったけど、一生懸命な姿に心を打たれました。マルチメディア室にはプロ顔負けの機材があり、ど肝を抜かれました」「高校とは違う設備がたくさんあり、これから通うのが楽しみになりました」などと感想を述べたレポートが提出された。





ダルビッシュと対戦したい
西武ライオンズから



浅村栄斗（あさむら・えいと）選手

大阪桐蔭高校3年Ⅲ類、右投右打、内野手、181㍥、78㍥。走攻守3拍子そろった内野手で、今夏の甲子園大会では、1番・遊撃手として29打数16安打2本塁打と打ちまくり、優勝に貢献した。

●浅村選手の話 プロ野球選手になるのは大きな夢だった。指名されて光栄に思います。一日も早く1軍でプレーできるように頑張りたい。1年目からチームに貢献したい。これまで支えてくれた両親に、プロに行って恩返しをしたい。パ・リーグなら（日本ハムの）ダルビッシュ投手と対戦したい。

夢

の実現への第一歩
学園関連4選手が
指名受ける

プロ野球
ドラフト会議

●プロ野球の新人選手選択（ドラフト）会議が10月30日行われ、学園関連では大阪桐蔭高校の浅村栄斗選手が西武ライオンズから3位、同校出身の高島毅選手（青山学院大）がオリックス・バファローズから4位で指名を受けた。また大産大の内田好治選手が福岡ソフトバンクホークス、加藤聡選手が中日ドラゴンズから育成枠で指名され、各選手とも大舞台での活躍を誓って希望に胸を膨らませた。



高島毅（たかしま・つよし）選手

大阪桐蔭高校→青山学院大、右投右打、内野手、176㍥、78㍥。全日本代表チームでキャプテンを務めるなど、チームを引っ張るリーダーシップを持っており、責任感が強い。野球に対する取り組みも真面目。リストの強さと柔らかさがあり、広角に打ち分けられる打撃には定評がある。東都大学秋季リーグ戦では首位打者に輝きベストナインに選出された。

●高島選手の話 オリックスは地元大阪の球団ですし、本当にうれしいです。チーム一丸で戦う印象を持っています。今年で引退された清原和博選手の大ファンです。オリックスに指名されたのも何かの縁ですし、機会があれば、ぜひお話ししてみたいと思います。プロの世界に入るからには、一日でも早く1軍に上がり、一日でも長く現役で頑張れるようにしたいと思います。

オリックス・バファローズから
地元球団に指名され光栄



内田好治（うちだ・こうじ）選手

経営学部4回生、大産大附属高校卒、右投右打、投手、182㍥、78㍥。最速150㍥の右腕。3年秋にデビューし、今秋は全12試合中、11試合に登板し8勝、防御率1.00と活躍。優勝を争った関西国際大との直接対決では3連投し、2試合連続完封で、逆転優勝の立役者となった。

●内田選手の話 ソフトバンクホークスに指名していただいて光栄です。小学校のころからプロを目指して練習してきました。ピッチングがプロで通用するのか心配な面もありますが、一生懸命頑張ります。

福岡ソフトバンクホークスから
秋8勝、最速150㍥の右腕



加藤聡（かとう・さとし）選手

経営学部4回生、上宮太子高校卒、右投右打、外野手、185㍥、86㍥。2年秋まで投手。リーグがDH制のため、大学入学後は打撃練習をしていなかったが、野手転向後間もない3年春に首位打者に輝いた。50㍥を5秒9で走る俊足スラッガーにオリックス、楽天、中日、横浜の4球団が注目し、視察していた。「粗削りだが、一発と足、肩はある」と評価されている。

●加藤選手の話 形としては育成ですが、同じプロの世界に入って第一歩を踏み出したことはうれしい。一日でも早く試合に出て、支配下選手登録されるよう頑張ります。

中日ドラゴンズから
粗削りも一発と肩に魅力

関西秋季リーグ5連覇達成！

大産大男子バレーボール

●大産大バレーボール部は、関西大学男子秋季1部リーグ戦で、3季連続6度目の優勝を果たした。9月14日から始まった予選リーグは4勝3敗だったものの決勝リーグへ進んでからは3連勝しての優勝。10月26日、首位の立命館大学と対戦し、セットカウント3対0のストレートで勝利した。この結果、大商大と勝ち点で並んだが、セット率で上回り、秋季1部リーグ戦は5連覇を成し遂げた。

立命戦の第1セットは、両チーム共にリーグ優勝をかけた試合にふさわしく、序盤から両者一歩も譲らない白熱した試合となった。中盤に入って本学のブロックが機能しはじめてリードする。立命も巧みなトスワークで攻撃を仕掛けるが、早瀬川を中心にボールを拾い攻撃に持っていく。終盤

で点差は縮んだものの流れは変わらず25対23で第1セットを先取した。

第2セット先取点は野口がライトから強烈なスパイクを決める。流れが来ると思われたが序盤は立命が一歩リードしたまま試合が進む。しかし本学も浜迫、万を中心に攻撃を重ね同点とする。川口のクイックで

リードを奪い、山添がブロックを決めるなどして波に乗る。最後は川口がクイックを決め25対22で第2セットも連取した。

第3セットは序盤から連続得点を決め本学優勢となる。立命も強烈なサーブやスパイクで攻めるが、



この日絶好調のスーパーエース万が次々と強烈なスパイクを決め点差を広げる。終盤一時逆転されるが、川口のサービスエースが決まりマッチポイント。第3セットも28対26で取り、セットカウント3対0の勝利をおさめた。

スターティングメンバーは、万、久保、野口、山添、浜迫、川口、リベロ早瀬川。

◇大産大の秋季戦績◇

【予選リーグ】	【決勝リーグ】
●2—3甲南大	○3—1大商大
○3—0大体大	○3—1関学大
○3—0龍谷大	○3—0立命大
○3—1大商大	
●2—3関学大	
●0—3近畿大	
○3—2立命大	



連勝街道ばく進 5年ぶり1部昇格

大産大サッカー部

●大産大サッカー部は11月2日、関西学生リーグ2部Bブロックの後期第6節で甲南大と対戦。5対1で勝利して同ブロックの優勝を決め、5年ぶりの1部リーグ昇格を果たした。

関西学生リーグは、本年度から前期9試合、後期9試合の通年で戦われており大産大は、4月26日から始まった前期を8勝1分として無敗のままBブロックのトップを独走。9月28日から始まった後期も5連勝で第6節を迎え、この日の勝利で勝ち点43まで伸ばしていた。11月23日の全日程終了まで3節を残しての優勝と1部昇格を決定、他大学を圧倒した。



世界大会へ出場権獲得！

全日本きもの装いコンテストでアパレル産業コースの3人

●2009年全日本きもの装いコンテスト関西大会が10月26日、姫路市文化センターで開催され、大産大経営学部アパレル産業コースの3人が2位に入賞。世界大会への出場権を獲得した。

同コンテストは、社団法人全日本きものコンサルタント協会が主催するもので、和装振興の一環として1972年より開催されている。鏡のない舞台上で、一人で素早く着装の技術と美しさ、きもの哲学「装道」の修得度を競う大会です。装い、容姿、立居振舞、情緒、言葉遣い、レポートの6点が審査される。また、若い世代に和装を広めようと設けられた学校対抗の部は、1チーム3人の総合点で競われる。

同コンテストは、振袖、留袖、カジュアル、男性、子供、外国人、学校対抗の7部門があり、大産大経営学部アパレル産業コースからは、岡村真美さん、田尻真理恵さん、藤原由果さんのチームが出場し、見事2位入賞を果たした。

世界大会は09年4月に東京で行われ、全国6ブロックの代表が出場する。



クラブ活動の記録

大阪産業大学

■アーチェリー部

○第46回新人戦（11・3服部緑地公園）男子50[㏍]・30[㏍]経験者の部19位 竹中貴浩（流通1回）▽未経験者の部21位 松井聡之（情報1回）、32位 和田圭介（情報1回）▽男子30[㏍]W未経験者の部3位 山口貴之（機械1回）、12位 山田悠貴（機械1回）▽女子30[㏍]W未経験者の部12位 テオ・シューイン（生活1回）

■アメリカンフットボール部

○関西学生リーグ（9・6～11・8王子スタジアム他）2部A2位 4勝1敗（23～7大教大、43～10追手門大、7～14龍谷大、50～0天理大、42～13和歌山大）

■空手道部

○第51回全関西空手道選手権大会（10・13大商大）団体8位（1回戦5～0和歌山大学、2回戦0～5近畿大）※1部残留

■弓道部

○男子リーグ（9・21～10・21各大学弓道場）2部B4位 1勝3敗（112～84龍谷大、114～139関西大、98～119同志社大、101～123和歌山大）
○女子リーグ戦（9・21～10・21各大学弓道場）5部A3位 1勝2敗（30〈1〉～30〈0〉大教大、不戦敗—京文短大、17～25近医福大）

■硬式庭球部

○関西大学対抗リーグ（9・13～10・13各大学コート）4部2位 4勝1敗（1～8びわこ成蹊大、6～3大関大、9～0大工大、6～3大府大、5～4阪大）
○3部4部入替戦（10・13シーサイドテニスガーデン舞洲）3部昇格（5～1天理大）

■ゴルフ部

○関西学生男子秋季2・3部校対校対抗戦（9・25～26日野ゴルフ倶楽部）団体戦3部1位 林貴映（経済2回）78・83、福岡嵩啓（流通2回）91・85、小宮路真司（スポ健1回）78・77、杉本晃行（経済1回）80・87、井原慧太（経済1回）93・86
○関西学生男子新人戦（10・14タイガースGC）2位 小宮路72（37・35）、11位 福岡81（39・42）

■サイクリング部

○第44回西日本大学対抗選手権自転車競技大会（8・9～10岸和田競輪場）大学対抗9位▽12[㏍]スクラッチ7位 剣持草（交機2回）、14位 小川洋平（流通1回）▽4[㏍]インディヴィデュアル・パーシュート7位 剣持草▽1[㏍]タイムトライアル15位 藤村俊之（交機1回）、19位 呉民守（経営1回）▽チームスプリント7位 剣持草、藤村俊之、小川洋平

■サッカー部

○タイカカップIリーグ2008（後期）（9・13～10・26各大学グラウンド）Cブロック3位 5勝2敗1分（4～0関外大、3～1天理大、4～2びわこ大Ⅲ、3～1びわこ大Ⅱ、0～3京産大、2～2近畿大、2～6立命館大Ⅱ、3～0同志社大Ⅱ）

■柔道部

○全日本学生体重別選手権大会（10・11～12日本武道館）66[㏍]級16位 吉本幸紀（経済2回）▽60[㏍]級1回戦敗退 柴田大地（スポ健1回）

■準硬式野球部

○西都六大学秋季リーグ（8・25～10・10寝屋川球場他）1部4位 6勝6敗・勝点18（桃山大1勝1敗、京産大2勝、摂南大1勝1敗、大手前大2敗、阪南大1勝1敗、奈教大1勝1敗）

■少林寺拳法部

○第42回全日本学生大会（9・28日本武道館）男女段外の部2位 真鍋佑輔（経営1回）・鳥越景子（スポ健1回）組▽女子初段の部1位 宮城島春菜（文化3回）・赤木優美（スポ健1回）組▽男子二段以上の部2位 藤原健太（経済2回）・貫代阿友美（経済1回）組▽男子三段以上の部4位 生友理禎（経営4回）・池田翔（経営4回）組

■テコンドー部

○第2回全日本選手権大会西日本地区大会（9・14長崎県立総合体育館サブアリー

ナ）男子フィン級8位 斎藤武志（電子4回）、大槻裕次郎（経済4回）

○第4回大阪府選手権大会（9・14住吉スポーツセンター）バンタム級上級2位 小森悠司（文化2回）、フライ・バンタム級初級3位 大谷健太（短大1回）、赤松敬太（建築1回）

○第2回熊本オープン選手権大会（10・12阿蘇市阿蘇体育館）ブムセ個人一般有級の部2位 富川研二（交機3回）

■日本拳法部

○全日本総合個人選手権大会（9・21大阪市中央体育館）2回戦敗退 高原義正（文化3回）、近藤健（国際3回）※予選突破の2人は全日本拳法総合選手権大会に出場

■バスケットボール部

[男子]○第63回国民体育大会（9・28～10・3新日鉄文化体育センター）竹内彰啓（流通3回）が奈良県代表として出場

[女子]○関西女子学生リーグ（8・16～10・18各大学体育館）

3部1勝7敗（36～149兵教大、74～72ノートルダム大、0（棄権）—20四天大、59～90和歌山大、64～73甲南大、54～104神外大、60～91梅女大、49～90兵庫県立大神戸）

■バドミントン部

○西日本学生選手権（8・25～9・2北九州市立総合体育館）男子2回戦敗退（3～2日本福祉大、2～3松山大）

○関西学生秋季リーグ（9・4～24舞洲アリーナ）男子2部5位 1勝4敗（0～5関西大、0～5同大、1～4天理大、2～3神院大、3～0関外大）※入替戦（2～3甲南大）の結果3部降格

■バレーボール部

○第14回男子アジアジュニア選手権（8・23～31イラン）川口翔太郎（スポ健1回）が全日本代表として出場

○第63回国民体育大会（10・1～7大分県立別府コンベンションセンター）山添信也（電子3回）が長崎県代表として出場

○天皇杯皇后杯全日本バレーボール選手権大会近畿ブロック（10・18～19グリーンアリーナ神戸）2回戦敗退（2回戦0～2フォルティシモ）

■ライフル射撃部

○西日本ランニングターゲット大会（10・12～13須磨総合射撃場）42位 藤井順平（経営3回）

■男子ラクロス部

○関西学生リーグ（8・17～10・31宝が池球技場他）2部3位 5勝2敗（4～11龍谷大、12～4大市大、11～6大経大、8～6阪大、3～10甲南大、16～8大院大、9～3神院大）※1部2部入替戦へ

■テクノフリースタイル部

○第14回ROBO-ONE（10・11～13パシフィコ横浜展示ホール）世界3位 ALC-NON?（ヴィストンと共同制作）

○ロボボロステーションVol.15（10・18ヴィストン1階社屋）ロボットバトルトーナメント準優勝 やまびー

○ロボファイ8（11・2大阪産業創造館）SRC4位 ジローちゃん、8位 I' get

大阪桐蔭高等学校

■硬式野球部

○秋季近畿地区大会大阪府予選（9・13～10・12舞洲ベースボールスタジアム他）3位（11～0河南、17～6汎愛、12～2桃山学院、7～1履正社、7～1太成学院大高、3～2浪速、0～1PL学園、5～3桜宮〈3位決定戦〉）

○秋季近畿地区大会（10・19～26西京極球場）準々決勝敗退（12～2滝川二、2～3金光大阪）

■女子サッカー部

○全日本女子ユース（U-18）選手権大会関西予選（11・1～2信貴山グラウンド他）2位（3～1元氣FC卑弥呼〈準決勝〉、0～3日ノ本学園〈決勝〉）

10度目の阪神リーグ制覇

硬式野球部が完全優勝

●大産大硬式野球部は10月17日、豊中ローズ球場で行われた阪神大学野球秋季1部リーグ戦の第8節3回戦で関西国際大学と対戦。4対0で完封勝ちし4季ぶり10度目の優勝を決めた。最終成績は10勝2敗の勝ち点5。完全優勝だった。

試合は一回、相手の失策と野選で1死一、三塁とし、大野の右前適時打で1点を先制。その後は両校投手が好投を見せ、緊迫した試合展開となったが大産大は七回、加藤の四球、川中の死球と永沼の犠打で1死二、三塁とし、飯田の左前適時打で2点目。その後、一塁走者が飛び出し、二塁間に挟まれる間に三塁走者が



本塁を陥れ、3点目を奪った。八回には、大野の左前打をきっかけに、四球と犠打で1死二、三塁とし、永沼がスクイズを決め4点目。

先発・内田は走者を出しながらも要所を締め、見事完封勝ちした。



●神宮大会出場はならず

リーグ優勝に伴い、阪神リーグ代表として神宮大会出場をかけた、関西地区の5リーグ優勝校による代表決定戦に出場。11月5日から南港中央球場で行われた大会で第1代表決定1回戦は、京滋大学野球リーグ代表の佛教大に2対5で敗れた。第2代表決定戦に回って、1回戦は近畿学生野球リーグ代表の奈良産業大に6対2で勝利。しかし2回戦は、再び佛教大に0対3で敗れ、神宮大会出場はならなかった。

◇大産大の秋季リーグ戦績◇

○7—1帝塚山大	○2—0関西外大
○5—1 //	●6—7 //
○4—1大体大	○4—2 //
○5—4 //	●1—3関西国際大
○3—2甲南大	○4—0 //
○9—1 //	○4—0 //

編集後記

学園創立80周年を祝う会は、学園が新しい時代へ飛躍する決意を内外に示した催しでした。学生編集部の南君が書いているように、新時代の学園もやはり「主役は学生・生徒」という揺るがぬ基本方針を確認させていただきました▲大阪桐蔭高校サッカー部、ラグビー部と大阪産業大学附属高校アメリカンフットボール部がそろって全国大会出場を決めました。うれしいトリプル出場。NeOSU1月号の表紙は、迷わず

3チームの勇姿に。学園にとっても絶好の「お年玉」になりました。このNeOSUが皆さんのお手元に届くころには、3チームの全国的活躍が見られることでしょう▲突然の世界的金融危機と日本経済の冷え込み。2010年春の就職状況が厳しくなりそうです。「それでも心配しないで着実に就職活動を」と武内キャリアセンター長に緊急メッセージを寄せてもらいました。大阪産業大学は就職に強い大学。3年

生の諸君！ 過度の心配は必要ない！▲NeOSUも創刊2号目。読者の皆さんの目にもなじんできた頃だと思えます。新生NeOSUの印象はいかがでしょうか。皆さんの感想を編集部にお寄せください。皆さんの声をNeOSU編集に生かします。(編集長・山名康弘)



皆さん、NeOSU編集に加わりませんか。
学生編集会議メンバー募集！

問い合わせは—— 学園広報課（本館9階）

e-mail : kouhou@cnt.osaka-sandai.ac.jp まで。

募集中！